



おのの 小野 欽 市



かいしん 改津クラブ

市政運営の転換局面に 新たな時代への対応を

問 新津市合併時の各地域における20事業はほぼ完成した。これからは、この合併事業を果実として新たな津市の創造に向かうべきである。

今こそ、津駅東口および南側の朝夕のバス・自家用車等の混在するターミナルビルや周辺ビルについて、併せて贅崎から津インターチェンジまでの新都心軸について、有効活用を考えることが必要な時期ではないか。

将来に向けたまちづくりに取り組んでいく

答 津駅周辺は、ビルの老朽化が進んでおり、今後、駅の形が大きく変わる時期が来ることから、その時期に向けて津駅東口および南側の在り方をしっかりと考えておかなければならないと認識している。

また、陸の玄関口として重要な役割を担う津インターチェンジ周辺については、これまで新たな土地利用が困難であったが、地域未来投資促進法と農村産業法の施行により、土地利用規制突破の可能性が出てきたことから、事業者等からの相談や提言を受けているところである。

津市の将来に向けて、解決すべき課題の整理を行い、まちづくりに取り組んでいく。

●その他の質疑・質問●

- 監査報告について
 - ずさんな会計処理や事務事業のまずさについて
- 地域の安全安心を高めるために
 - 津西地区ならびに橋南地区八幡町周辺への交番設置について
 - 三重とこわか国体・三重とこわか大会での障がい者数に合わせた多目的トイレの整備について など



▲朝夕に混雑する津駅東口



かとう みえこ 加藤 美江子



こうめいとうぎいんだん 公明党議員団

ひきこもり対策推進事業の状況は

問 従来、ひきこもりは主として若年・青年層の課題としてイメージされてきたが、最近は就職氷河期世代も含め中高年層に及ぶ大きな社会問題となっている。

40歳から64歳のひきこもり状態の人が全国で約61万人という推計であるが、津市において、市民の方への周知とともに、ひきこもりの相談窓口の対応はどのようにしているのか。

生活福祉・自立応援包括支援窓口を設置する

答 令和2年4月から援護課相談支援担当に、ひきこもりや就労支援など各種の生活相談に対応する生活福祉・自立応援包括支援窓口を設置予定である。

現在は、生活困窮に関わる相談員が情報共有し、全ての相談員が寄り添い、関係機関と連携し自立に向けた支援に取り組んでおり、津市に適した相談支援体制であると考えているが、窓口の設置に併せ、今後もさまざまな専門的な研修会に積極的に参加するなど、ひきこもりの自立に向けた支援に関する知識のさらなる向上を図る。

また、他市の事例も参考に相談しやすい環境づくりに努めていく。

●その他の質疑・質問●

- 施政方針から
 - 少子高齢化・人口減少の課題に一番に取り組むべきは何か
 - こども子育て・出会い応援包括支援窓口設置で前に進む事は
- 弁護士資格の職員採用は
- 認知症対策から
 - チームオレンジの整備は
- 教育方針から
 - 特別支援教育の推進における校内での共有の考え方は など



▲ひきこもりのご相談は生活福祉・自立応援包括支援窓口へ